

赤羽 芳

物があるかないかという事ではなく、 どのように生きているかが問題



消防ポンプ小屋に 生まれて

私の出身は、九州の福岡県の田川というところで、一時間ほど山に入ったところまで、猿が出てくるような田舎なんです。私のところは、お寺といっても父親が初代でしたから、ご門徒もなければ、住むところありませんでした。初めは、消防団のポンプを入れておく倉庫、ポンプ小屋に住んでおりましたので、私が生まれたときの表札には、第三消防分団と書いてあったのです。

家では、母親が「お米がない、芋もない」と言う、「芋がなくても、野菜が草があるだろう」と父親が答えるものだから、母親が「この子をどうやって育てていけばよいかを考えてください」と言っ

て喧嘩になりました。父親は、「いよいよよくなった、みんな仏さまにまかせておけば良いのだ」と言っ、堂々と生きておりました。貧しいか、豊かであるか、物があるか、ないかということではなく、どのように生きているかということが、貧しいか、豊かであるかを決めるのかもしれない。

私の生まれた昭和二十三年頃は、戦後すぐの何も無い時代でしたから、村の人が心に掛けて、ポンプ小屋を訪ねて、白菜や大根を下さいました。破れたモンペをはいて、泥だらけになつて働いて、畑で日に焼けて、真っ黒な顔をしたおじいちゃんやおばあちゃんが、南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏とお念仏を申しておられた顔が今も忘れられません。

現在、日本は経済、医療、介護、福祉などの様々な問題を抱えております。仏教は二千五百年の昔から本当に生きていえること、本当に死んでいけることを教えようとして、生死をこえる、広い意味において生老病死の苦をこえることを説いてきました。しかし現代においては、

自分の都合で外側を かえる生き方

人間にとつて一番大切なことがすつぱり抜け落ちてしまっている状況にあります。四門出遊に見られるように、もともと釈迦族の皇子であつた釈迦さまは、地位や名譽、家を捨てて出家をされ、人間の問題に向き合うことにその生涯のすべてを捧げられました。

私たちが、生老病死の苦をこえるといつても、私たちの考え方は、生老病死の課題から自由になることはできません。私たちは、自分の都合を問わないで、その都合、自分の都合に合わせることに執着しています。例えば、暑いからクーラーを点けようとか、寒いからヒーターを点けようというように自分の都合に合わせて、外側を変えていくあり方、こうした考え方を外道といひます。

お釈迦さまは、自分の都合に合わせて外側を変えるというものから、自分の都合を考へてみましょうという方法を取られたのです。苦の原因を探らなければ、苦をこえることはできないのです。

人間がつくる地獄、 餓鬼、畜生

昔の説教に、家の壊れた穴から、隣の家の障子が破れている様子を見て笑っているという話があります。私たちの眼は、世界の中を見ることだけですが、自分で自分の眼を見ることができません。それが分らないように、人間は自分のことが分らない人々のために説かれた経典が大無量寿経です。大無量寿

本願は、自分一人のために建てられ、自分のような絶対救われないものを救おうとして建てられた願いと読むのです。ですから、浄土には地獄、餓鬼、畜生は存在しません。

人間は、肌の色の違い、国家の違い、民族の違いによって戦争や自殺を繰り返しています。人生の中で悩み、どうしているか分からず、死んでしまおうと思つていたときには、「地獄、餓鬼、畜生をつくつていけるのはあなた自身なのです」という教えが響いて、仏さまは自分が反省してもわからないことを、ずっと以前から見抜いて下さつていたのでと感得するのです。

本願の第十八願に、南無阿彌陀仏を称えて、自身の愚かさに目覚めて、仏さまに帰依するものにならなさい、我が國に還つてきなさいという仏さまの呼び声を聞き取って下さい。

私たちは、自分のいのちと言うけれども、自分で生まれた人一人もおりません。みんな仏さまからいただいたいのちです。私のいのちと思つていたことが、仏さまからいただいたいのちというように方向が変わります。南無阿彌陀仏の智慧によつて、私の思いが破られて、「私が、私が」といつていた自身の愚かさを知らされて、仏さまの世界に自ずと頭が下がります。

七月三十日・三十一日 第十三組
真宗講席から一部抜粋

赤羽別院報 第16号
発行日：2008年(平成20年)10月1日
発行所：真宗大谷派 赤羽別院 観音寺
発行人：浅野 裕
愛知県稲沢市一色町赤羽上郷中14
Tel.Fax: (0563) 72-2308
印刷：株式会社コーセー社

■講師紹介
延塚知道師 (のぶつかともみち)
一九四八年生まれ。一九七二年大谷大学文学部卒。
一九七八年、同大学大学院文学研究科博士課程単位取得。
現在、大谷大学教授(真宗学)。
著書
「われはかのごとく如来を信ず」(自伝)
「大悲の人、蓮如」(大谷大学)
「他力を生きる」(清澤海之の求道と福沢諭吉の美学精神) (筑摩書房)
「人間に生まれて」(崇信学舎)「清澤海之」(東本願寺出版部) 他多数。



平等施一切 同発菩提心 往生安楽国：と同朋唱和によつて、ご門徒の声が入り交じつた朝のお勤めが終わると、続いて参詣者が静かに御文を拝聴される。ナンマンダブツ、ナンマンダブツ▼毎朝、お朝事が勤められるようになったのは、赤羽別院御堂が再建円成し、平成七年の宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要が厳修されたからのこと。▼お朝事に来られる方は、御遠忌法要で紹介されたから、連れ合いが亡くなられたから、友達に誘われたから、動機も、始めた時期も様々。▼お朝事が終わるとホッと一息。恒例の「朝のティータム」が始まる。お朝事の人達が少しでも多くの方に参詣して頂きたくと願つて始められた。お寺さんも巻き込んだ、楽しいひと時となり、一緒にワイワイ、ガヤガヤ。赤羽別院とご門徒の皆さんとの親密な関係が垣間見られるひと時▼そんなお朝事の方々が心配している事、それはお朝事の人達が歳を重ねる毎に体の自由が利かなくなり、参詣が出来なくなつていく事。行事の時のお手伝いが足りなくなつてきていること▼みんなにもつと来て頂けるようにもお声掛けをする日々▼夢は、子供達が来てくれるような楽しい別院。若い人達が遊びに来る開かれた別院。お年寄りが寄り合える気楽な別院▼赤羽別院を御坊さんと呼び、我が事のように大切にしている気持ち、ひしひしと伝わりました。

赤羽地域教化センターの活動展開に向けて

座談会出席者（敬称略）

輪番 浅野 怜
主幹 藤原 肇
儀式部門 小谷 香示 小栗 貴次
伝道部門 三浦 真教 安藤 智彦
社会問題対策室
羽向 智祥 伴 仁志
出版室 占部 寧 三村 謙作
（聞き手 占部 三村）

聞き手 初めに輪番の浅野さんからセンターに込める思いを伺います。

浅野 宗門の長い歴史において地域教化の中心として護持されてきた別院も、社会情勢・交通事情の変化に伴って、「別院格差」を生じている現状です。そうした背景の中、再生を願う赤羽別院では、崇教区域の共同教化の拠点として、地域教化センターの活動展開に向けて鋭意努力しているところとです。

また、これからの小規模別院の在り方を追求し、崇教区域のご寺院・ご門徒の皆さんと密着した教化をどのように進めていくとよいか。各部門の担当者からご意向を伺い、充実した教化活動を展開するための参考にしたとと考えています。

赤羽地域教化センター “地域”と名告る根拠

聞き手 主幹の藤原さんからセンター構想の基本骨子についてお聞かせ下さい。

藤原 まず、「赤羽別院教化センター」ではなく、「赤羽地域教化センター」と名告ることに注目をして下さい。

前者は別院の活性化に終始した組織となります

が、後者は、「地域」ということを名称の中に掲げています。ここに大きな意味があるのです。後者は赤羽別院をターミナルの基地と考えて情報発信と集約につとめ、赤羽から発信することはすべて地域の寺院やご門徒に還元されていくという理念のもとに活動を展開させていくことです。また、センターの位置づけについて三通り考えられます。

- ①別院の中にセンターを立てること。
 - ②別院と別立の組織とするケース。名古屋別院教化センターは、別院や教務所とは別立の組織として活動していますね。
 - ③別院を内包するセンター。教化の中心はセンターが担い、センターが別院を包括していく成り立ち。赤羽地域教化センターは、「③」をスタンスとして発足したのですが、全国でも他に例がありません。
- 今後は、赤羽崇教区域のみなさんのお力をいただいて、センターを支えていただきたいものです。

寺院を取り巻く課題

羽向 念仏相統という伝統によって築かれてきた人間関係、寺院と門徒の関係は確実に壊れてきています。

現在自坊では、門徒の方々とお勧めができるように練習を行っているのですが、若い方の参加が非常に少ないのです。

六、七十代の方々が、若い世代の方に「お寺に行こう」と誘うことができないんですよ。

聞き手 参詣者の高齢化は否めませんね。

伴 私、現代人の寺離れを考えてみると、児童教化を中心に取り組んでいきたいです。



センターへの期待

聞き手 課題は山積しておりますが、教化センターが事業を進めるうえで、他に問題点などがありましたらお聞かせ下さい。

お寺の役を担っている方の多くは、幼少の頃に「お寺で遊んだ記憶がある」とか「お勤めの稽古に通ったことがある」などと言われます。親子ともに、お寺へ関心を寄せていただくようにお寺で行う花まつりの企画や、実施のためのノウハウなどを「センター」が末寺へ発信していく体制を整えていきたいですね。

羽向 現代の人に仏法を語る時、我々僧侶も現代特有の不登校の問題や、いじめの問題、自死の問題、終末医療の問題などに応えねばならないと考えます。

三浦 従来、行われてきた別院事業への対応とセンターの事業との区別や関わり方がよくわかりません。

今のところ、センターでは各部門下に部長と副部長の二名だけですから、事業の企画から広報、実行までを考える教化委員会のような組織媒体に協力を要請したいですね。責任の主体を明確にして多くの方に関わりを持っていただき、伝道部の活動内容について議論をしていきたいですね。

安藤 末寺や組では、既に工夫と努力を重ねながら教化事業を行って見えますから、地域ならではの取り組みを持続的に行っていききたいですね。それから、私たちは教化事業を行うと「ヤレヤレ」という気持ちになって安堵して、やりっ放しという状況になりがちです。必ず、反省をして次に活かす語り合いを持ちたいですね。

小谷 スタッフの顔が揃ったところで動き出したと思っております。

儀式部について考えますと、「センター」のもつ性格から、儀式部では単に儀式と作法を学ぶ場とイメージされるために、法要の準備から法要後の後片付け、反省にいたるまでを総括していく部門として名称を法要部とした方が良いように思われます。

小栗 これからの別院は、別院としての特別な法要を勤めるのではなく、末寺の参考となるような法要の勤め方を提示していくとよいと思います。また、各寺院での取り組みを聞き取って、参考となる活動を公開していく試みがあるとよいですね。

聞き手 本日はありがとうございます。センターは、寺が抱えている問題を個々で抱え込まないで、共に議論し、課題を共有する場として、その役割を担うものでしょう。そのような地域や寺々と呼応していくセンターのイメージが見えてきたように思います。

カルチャーウォーク

真宗の歴史をたずねて

涼しくなった秋の一日、真宗の歴史をたずねて碧南の地を散策してみませんか。名鉄三河線碧南駅を降りたら、この春オープンした「大浜陣屋広場」に立ち寄りてみましょう。「大浜陣屋」は明和六年（七六九）旗本、水野忠友が新たに与えられた三河の領地を支配するため設置されたものといわれる。大浜陣屋を構えた沼津藩（明治に菊間藩）は明治維新政府の推す神道国教化政策に忠実であった。いわゆる廃仏毀釈の風潮も影響し、この地方の熱心な真宗門徒は、これに強い危機感をもったようで、キリスト教流入の風評へと展開していったようだ。そして、この事件で殺された菊間藩の役人の一人、藤岡薫氏の墓と殉職碑がすぐ近くの曹洞宗の林泉寺にあります。

林泉寺石畳の参道を出たら、これもこの春オープンした、碧南市藤井達吉現代美術館に寄ってみたい。開放的で黒を基調とした近代的な建物はいつい足を踏み入れたくなります。藤井達吉の絵画・工芸等に親しんだら、手作りパンのおいしい喫茶ルーム「むぎの家」で息すると、眼前的ガラス越しに清澤満之終焉の地、西方寺が見えます。門をくぐると十一間四面の大本堂と境内一杯に横たわっている樹齢四百年の黒松「弥陀の松」が威風堂々



▲西方寺 弥陀の松

とし、なんとも言えない風情があります。本堂参拝のあと、是非奇りたいのが裏手にある「清澤満之記念館」です。清澤満之は真宗における近代的教養の基礎を築いた人と言われ、ここには遺品や蔵書、原稿等も数多く収められています。江戸時代に建てられた（平成十六年に修復）奥座敷二階も見学でき、ここで浜風に吹かれながら、「自己とは何ぞや」と思索された満之を偲びつつ、我が身を見つめ直してみてはいかがでしょう。近くにはうなぎのおいしい「十八」、また魚料理専門の「うお鉄」もあり、食通にはたまらないところでもあります。



「最近、いつ精進料理をいただきましたか」と聞かれて答えられるでしょうか。ご存知の通り肉や魚を使わない野菜中心の料理ですが、なぜ「精進」という言葉が使われているのでしょうか。

「精進」には①ひたすら仏道修行に励むこと。②心身を清め、行いを慎むこと。③肉食せず、菜食すること。④一生懸命に努力すること（「広辞苑」より）という意味があります。考えてみますと今は豊富な食材に恵まれ「精進料理」をいただく機会が少なくなってきたのではないでしょうか。

仏教の教えの中では、精進料理とは、単なる菜食主義とは異なり、「殺生」や「いのち」についての料理ならではの真剣に考え直すための料理なのです。肉や魚を食べないということは、「いのち」の大切さを知るきっかけになります。野菜にも「いのち」があるのです。精進料理を食べたから殺生しなかったと考えるのではなく、野菜にも「いのち」があるのだというところに気づくことが大切ではないでしょうか。そして私たちは生きるために他のいのちを奪わないと生きていけない存在であることを知り、生きとし生けるものすべてのものに感謝することを忘れてはならない身であり、またあります。

さて報恩講をお迎えさせていただきます。お産（とき）とは仏事に食する精進料理です。次の献立は親鸞聖人が弥陀の本願を伝えようと

精進料理をいただく

布教のため歩かれたお姿をイメージしたものです。

しいたけ▽頭にかぶる「笠」
大 根▽聖人の「お顔」
三角あげ▽「袈裟」
にんじん▽布教のため歩かれて、血だらけになられた「足」

ごぼ▽「杖」
里 芋▽布教の時、夜の宿を断られ、雪の中で枕にして休まれた「石」

報恩講は、真宗門徒にとつて最も大切な御仏事であり、親鸞聖人を偲び、仏事に遇わせていただいた喜びを感じつつ、いのちある食事の本来の意味を問い直す機会としたいものです。



●弁当（法事の時など）
●産業給食
●老人食 等

(有)Support Kitchen Center
(地域栄養支援センター)

〒447-0863 碧南市新川町5-75
TEL 0566-48-5279

赤羽御坊ちびっこ絵画展

第1回

◆赤羽御坊ちびっこ絵画展が本年より新しい事業として開催され、8月26日の晩天講座後に表彰式が行われました。幼児の部（3歳〜6歳）小学生の部の2部で、応募総数は104点でした。（募集期間：5月1日〜7月31日）

選考の上、金賞（別院賞）10点、銀賞（輪番賞）20点、銅賞30点が選ばれて、金賞受賞者10名と、銀、銅賞受賞者の代表5名ずつが表彰され、記念品が贈られました。

金賞受賞者

- ・山田悠仁くん
 - ・村井優斗くん
 - ・岡田百香さん
 - ・小原拓麻くん
 - ・小林優希さん
 - ・福田夏々子さん
 - ・石原未菜さん
 - ・徳倉瑞起くん
 - ・石原麻稀さん
 - ・小原萌子さん
- （順不同）



来年以降も、絵画展を開催する予定です。皆さん振るって応募して下さい。

人間模様

今回は、吉良町の河井さんと、岡崎市の宮本さん(わんにゃんサポートクラブ)にお話をうかがいました。

地獄(餓鬼、畜生、修羅)はこの世にあり。平成十八年十月吉良町駿目の良興寺さんで、野良犬が十匹の子供を産んだ。そこで住職さんが、「わんにゃんサポートクラブ」に連絡。この事で知る小さないのちの意味とは。

河井 まず電話をいただいたのですぐ宮本さん親子と二人で伺いました。子犬が十匹、あと親犬一匹がいました。親犬のほうは檻をしかけたら、お腹が空いていたせいか、すぐに捕まりました。

「娘さんも泥だらけになって縁の下にもぐり、助けてくださったことに、ご住職さんが感動されていました。その後その犬達はどのようにしていますか。」

宮本 はい、子犬はすべて里親に、そして警戒心を持った親犬ははじめ私が引き取って、家の中で飼い、人間のすべてを見せて、信頼をつけて今は河井さん宅で飼われています。本当に大変でした。

「今の日本の殺処分の現状は？」
河井 犬は年間九万頭、猫は二十二万頭が殺処分です。特に豊田の動物管理センターでは、西尾、幡豆が八割だと聞いています。

「この現状は先進国ではワースト1だそうですね。イギリスでは各自治体にシェルターがあって、そこで保護していると聞きます。日本は安楽死と聞いていました。が実際には窒息死だそうですね。」

宮本 まず人間の都合で手放すことななく、飼い主を探して下さい。安易に保健所に届けばよいという考えを持たないでほしいです。野良犬はちよっかいをかけるければ近寄ってはきません。犬の方だて怖いんですよ。

「今、一番伝えたい事は？」
宮本 最近、子供連れのお母さん達が野良犬を見ると「うわあー野良犬だ！」



(お知らせ)
このサポートクラブでは十月に岡崎の東動物園で、十二月に岡崎のシビックセンターでパネル展等をやっています。里親になつてくださる方や、ご意見等がありましたら、090-9173-1608(宮本)まで。

仏事 Q & A

故人を偲ぶしめやかな葬儀をしたのですがどうすればよいのでしょうか？

まず、お寺の御本尊の前や、自宅のお内仏の阿弥陀さまの前で葬儀をするのはどうでしょうか。

最近では、多くの方が葬儀場(セレモニーホール)で葬儀をされるようになりました。豪華な祭壇に、葬儀の段取りも一切まかせられてとても便利です。しかし一方では、スマートで便利なことに隠されて、思い出を話しながら故人を偲び、お世話をしたりという、人との関わりがなくなっています。そして阿弥陀さまの教えを聞くことも失われているのではないのでしょうか？

寺院、自宅で葬儀をすることは、阿弥陀さまを中心としたシンプルな荘厳で行います。そのことにより、阿弥陀さまによつてお浄土へ生まれていくことを確認します。

そして、故人を偲びつつ、色々な人の話を聞いていくうちに自分の生き方を考えることにもなります。葬儀は素朴なものです。南無阿弥陀仏に出遇い、南無阿弥陀仏を申していく場所であればなりません。



▲真宗葬儀の荘厳(野卓)協力 安壽寺

報恩講日程と御文法話

10月11日(火)
初建夜 午後1時
法話 本多良友師
(西尾市貝吹町福正寺住職)

10月15日(水)
日中 午前10時
夜 午後1時
法話 和田法雄師
(幡豆郡一色町長寿寺前住職)

10月16日(木)
結願晨朝 午前10時
結願日中 午後1時
法話 池田勇諦師
(桑名市西恩寺前住職)

15・16日は、お斎の用意をしております

赤羽別院晨朝法話担当者一覧

- 10月13日(月)第8組 福正寺 本多良友師
 - 28日(火) 宿禰寺 織田慶雄師
 - 11月13日(木)第9組 正覚寺 櫻部明師
 - 28日(金) 願専寺 大深界有師
 - 12月13日(土)第10組 願正寺 三村謙作師
 - 28日(日) 法園寺 石川祐美子師
- 赤羽別院の晨朝法話、10月から12月までの担当です。

編集集

この号から占部堂(11組)・三村謙作(10組)・本多良友(8組)・藤原知貴(9組)・石川祐美子(10組)・佐々木真哉(11組)・小栗真次(12組)・雲英真人(13組)・浅野真理子(14組)が編集を担当します。

また、願字を願正寺御同行島居伸子さんにこ揮毫いただき、四コマ漫画は養林寺御住職東脇芳幸師が引き受けて下さいました。両氏のご協力に深く感謝いたします。

これからの取材や編集作業を通して、現在の寺や地域が抱えている課題を明らかにしたい。そして、御同行が協同して取り組んでいくために、少しでも役立つ紙面を作りたいと思っております。皆様のご意見・ご感想を頂ければ幸甚に存じます。何卒よろしくお願ひ申しあげます。

Yes!
高須クリニック
美容外科・形成外科・皮フ科・泌尿器科・歯科
院長 高須克弥

●年中無休 ●予約制

赤坂 地下鉄千代田線 赤坂駅5番A出口すぐ
〒107-0052 東京都港区赤坂2-14-27
国際新赤坂ビル東館12F
TEL.03-3587-2061
歯科直通 03-3583-9244

電話受付 9:30~22:00 **0120-5587-15**
歯科専用 10:00~19:00 **0120-4180-86**

まごころ込めておつくりします

総本家五代目
仏壇仏具
製造販売
洗い修理

吉崎礼二郎
仏壇

千四四一〇四七
愛知県幡豆郡色町大字赤羽別院前
電話 〇五三三七二八五七番